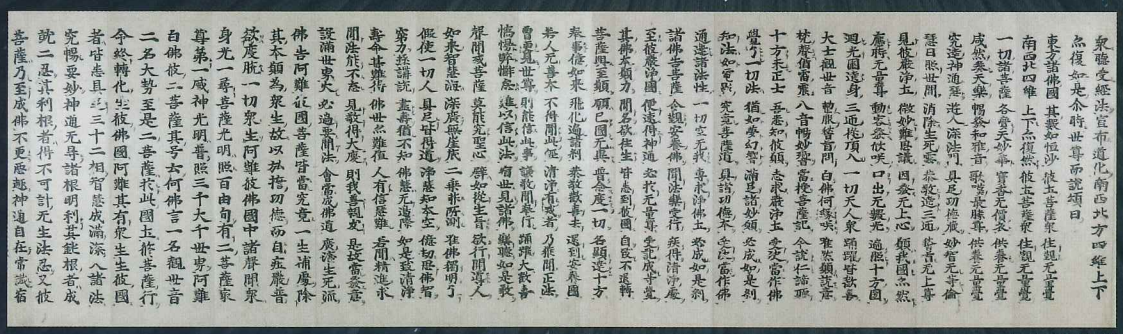
阿弥陀三尊来迎図

重文 釈迦如来立像

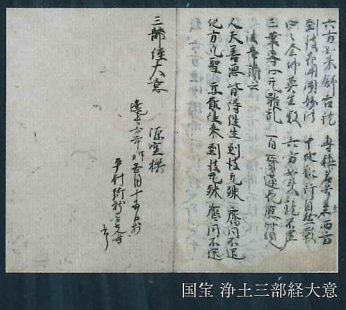
来迎弥勒菩薩像

「御仏のおわす国」の原型は、インドで仏教を開いた釈尊の住む世界すなわち娑婆世界です。しかし、釈尊は八〇歳で生涯を終え、世界は無仏となってしまいました。仏教徒のなかには、新たな仏の出現を渇望し、その物語をつむぐ者たちがいました。物語の中の諸仏が住まう国々は、清浄で美しく、正しい教えに満ちており、「仏国土」「仏土」そして「浄土」と表現されました。人々は憧れ、この物語を書き記し、諸仏の姿を絵画や彫刻で形作り、時代も国境も民族も超えて、伝えてきました。現代の日本で、浄土といえば阿弥陀如来の極楽のイメージが非常に強いですが、仏教二五〇〇年の歴史からみれば、極楽浄土も「御仏のおわす国」の一つです。

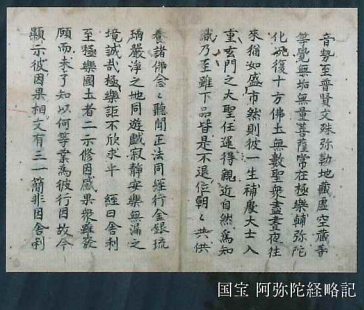
本展示では、様々な浄土の物語を国宝 称名寺聖教からひもとき、信仰の現れを伝えた称名寺の絵画や彫刻にて紹介します。



国宝 無量寿経



国宝 浄土三部経大意



国宝 阿弥陀経略記

次回予告

特別展 **安達一族**

7月20日(金)～9月17日(月・祝)

主要展示品（全て称名寺所蔵・神奈川県立金沢文庫保管あるいは管理）

【国宝 称名寺聖教】
無量寿経、観無量寿仏経、阿弥陀経、法華経、華厳経、阿弥陀経略記、法然撰浄土三部経大意、一遍上人法語集

【重文 宋版一切経】
中阿含経、雑阿含経、増一阿含経、大般若波羅蜜多経、注維摩経

【彫刻】
阿弥陀如来坐像、県文 十大弟子像、弥勒菩薩坐像、維摩居士像

【工芸】
金銅華鬘

【絵画】
県文 三千仏図（甲本）、仏涅槃図、十王図、県文 元照像、覚鑁像、伝湛睿像

かなチャンTV 神奈川県立 金沢文庫